

らしっく

自分らしく、粋なくらし

まちづくり・生涯学習情報誌

2006.12
燈花号
Vol.16



らしっくは、自分らしく、
粋なくらしを目指す人たちを
応援する情報誌です。

市民活do P.4

- ・ 湯来ひよつとこ民話会
- ・ NPO法人
広島レスキューサポート・バイクネットワーク

プラザ通信 P.5

らしっく情報の森 P.9

ひろしま八区 イベントガイド P.11



「燈花」とは、
ともしびの灯心の先に
できる燃えかすが
花の形に固まったもの。
タイトルの「燈花号」は、『らしっく』が
みなさんの「ともしび」となり、
市民活動という温かい志の花が
たくさん咲くことを願い
名付けました。

P.1

特集／ビビッとしっくに

- ・ NPO法人もみじスポーツクラブ
- ・ NPO法人ピースビルダーズ・カンパニー
- ・ 日本語教室「もみじ」



「ホテル・ルワンダ」の広島公開に当たり、ルワンダ駐日大使を広島に招待しました（左）
JICA（独立行政法人国際協力機構）の行う平和構築研修事業にも協力しました（上）

紛争後の地域に「平和」を伝える

NPO法人ピースビルダーズ・カンパニー

平和を構築するということ
ピースビルダーズ・カンパニーは、平和を創り出そうとしている人々を支援し、ともに活動していく団体。事務長を務める藤千恵さんは、NGO「難民を助ける会」のスタッフを6年間務めた経験をもちます。広島ではどのような平和教育が行われているのか、昔から関心があったそうです。ルワンダ在住経験から「ホテル・ルワンダ」の字幕監修を手がけ、日本での上映活動にも参加した藤さん。広島で実践されている平和教育の聞き取り調査などを行ううち、「新しい広島の平和教育が提供できるのではないかと考えるようになりました。そして昨年12月、「NPO法人ピースビルダーズ・カンパニー」を立ち上げました。

ヒロシマの経験を世界へ
ピースビルダーズ・カンパニーの活動目的は、紛争後の地域に平和を構築すること。しかし「平和とは何か」をただ語っても、実感してもらうのは困難です。未来への希望を失い、トラウマを抱える人々に、一般論で「平和構築」を語っても、地域に根付きません。紛争後の和解と心の傷を癒す時、非常に有効なのが、「ヒロシマ」の存在です。

ボランティア活動の場
イベントに参加してくれる大学生のボランティアを見て、藤さんは「広島出身の子は、平和活動に関心を持っている子が多い」と感じるそうです。しかしその反面、広島独自の平和教育で育てた人材を活用しきれないと感じることも。「広島で平和活動をする場合、選択の幅が狭いんです。『原発関係以外の平和活動がしたい』と思う子は、他県へ流出する傾向があります。せっかくの人材が、もったいないです」と藤さん。「ヒロシマ」という枠にとらわれずに一歩踏み出した活動を心がけています。

NPO法人
ピースビルダーズ・カンパニー
住所 南区宇品海岸
1-11-11-401
URL
http://www.peacebuilders.jp/
活動日 不定期
(ボランティアは随時募集)

催し、ブラジル料理やペルー料理を食べながら交流できる時間をもちたいそうです。日本人と外国人の混合チームを増やすことが今後の目標です。

チームはレベルが非常に高く、見ているだけでも勉強になるとか。スポーツ指導を通してコミュニケーションを図ろうと、ブラジル人が小学生を指導するフットサル教室も計画しています。



矢野南連合町内会長も務める笠井清孝さん。地元の子供もサッカークラブの指導者でもあります



通常のサッカーボールと違い、一回り小さく弾みにくいフットサルボール

NPO法人
もみじスポーツクラブ
住所 安芸区矢野西4-8-6-202
電話 082-889-3776
試合会場
坂町B&G海洋センター体育館
URL
http://www.sportsonline.jp/momiji/

交流を深めて偏見を解消したい
マツダの下請工場が集中している安芸区には、多くの外国人労働者が住んでいます。しかし地域住民と接する機会が少なく、お互いが交流する場は非常に限られています。そんな状態を解消しようと、「NPO法人もみじスポーツクラブ」は、フットサルチームのリーグ戦（広島・安芸フットサルリーグ）を開催しています。

試合の後も交流を持ちたい
リーグ設立にあたり、笠井さんは在日ブラジル人を支援している広島日伯協会に話を持ちかけました。ブラジル人を派遣する人材派遣会社に連絡をして、フットサルチームを募集。ブラジルから3チーム、ペルーから2チームの応募がありました。笠井さんは、「外国人と日本人のコミュニケーションの場にもなること目的ですが、外国人が自分を表現して楽しめる場になってほしいと考えています」と語ります。



【フットサル】室内で行う少人数サッカー。基本的に5人対5人で試合を行い、コートの大さはサッカーコートの1/4。試合時間は前半20分・後半20分の計40分となっている

フットサルを通じて国際交流



ビビッとアンテナを張り巡らせている人は、いつもvividにイキイキと生きています。そんな方々のchic(粋)な活動をご紹介しますこのコーナー。
さあ、あなたもビビッと、しつくと暮らしてみませんか？

明るく安全な地域づくりは、相互理解から始まります。地域在住の外国人とコミュニケーションを図り、相手について知ることは、国際交流の第一歩でもあります。「もっと仲良くなりたい」「もっとと他国のことを知りたい」という思いで、地域に根ざした国際交流に取り組んでいる方々を紹介します。

NPO法人もみじスポーツクラブ



マンツーマンの 日本語指導で学びあう

日本語習得のお手伝い

日本語教室「もみじ」が発足したのは、平成6年（1994）年のこと。古田公民館が外国人を対象に開催した「日本語学習講座」がきっかけでした。日本語学習講座では「日本語指導ボランティア養成講座」の修了生が講師を務めたのですが、このメンバーが「このまま活動を続けよう」と集まり、日本語教室「もみじ」が誕生したのです。現在は日本語指導にあたるボランティア17人、外国人の「学習者さん」16人で活動を行っています。希望があれば託児も行うため、小さな子どもを連れてお母さんにも好評です。

学習者さんの国籍は、カナダ・イギリス・中国・フィリピン・パラグアイ・ベトナムなど本当にさまざま。年齢も20代・50代と幅があります。代表である坂梨悦子さんは「この教室では、いろいろな国の人と仲良くなることができ、その国の文化や習慣を知ることができるので、私自身も勉強になります」と語ります。

個人のニーズとレベルに合わせた勉強会

学習は、基本的にマンツーマン指導。個人のレベルに合わせて丁寧に対応しています。漢字を覚えたい人には漢字ドリル、日本語検定に挑戦したい人には検定のテキストなど、教材も臨機応変に使い分けます。日本語しか話せないボランティアメンバーもいますが、特に不自由はないそうです。「片言の日本語とボディーランゲージでなんとかあります。中国や韓国の方なら、漢字で書くこと意外と通じるんです」という人も、親切な個別対応は人気を呼び、口コミで広がりました。半数は近所に住んでいる人ですが、中には遠方からやって来る人も。フィリピンのベルマ正木さんも、そのうちの1人。廿日市市佐伯町から車で片道1時間近くかけて通っています。「友達に教えてもらい、この教室のことを知りました。この教室は、いままで通った日本語学校の中で一番私に合っていると思います」とベルマさん。現在は

日本語教室「もみじ」

日本語検定3級の取得にむけて、頑張っているそです。

勉強の後は、ティータイムを設けています。お茶を飲み雑談をしながら、今日勉強したことをみんなの前で発表する時間。雑談は、日常会話上達の有効な方法でもあります。学習時間は静かで真剣な空気にあふれる教室ですが、ティータイムになると、笑顔があふれる和やかなムードに包まれます。

お互いのことを学びあう

教室では年に数回、イベントを開催しています。日本的な行事を知ってもらおうと、今年の春はお花見を行いました。6月には、ベトナム出身の学習者さんに教わり、公民館の調理室を利用した「ベトナム料理教室」も実施。本場の調味料なども登場し、大好評でした。

国籍と年代を超えて、楽しみながら日本語が学べる教室。草の根の国際交流をめざし、互いの文化や習慣への理解を深めています。



日本語教室「もみじ」

活動時間 金曜10:00～12:00
活動場所 古田公民館
会費 毎月100円（お茶菓子代）
問合せ 082-272-9001

ただ今、漢字の書き取り中。「日本語で一番難しいのは、漢字の読み書きです」（右）

勉強の後は、お茶を飲みながら会話をします。この日のお茶は、パラグアイ産のマテ茶でした（上）

「ベトナム料理教室」では、生春巻き（ゴイクーン）・サラダ・揚げせんべい（ゴイガー）・ぜんざい（チャー）を作りました（左上）

近所の公園でお花見。日本の文化を知ってもらい、よい機会になりました（左下）



元気に踊り、笑い合う

湯来ひよつとこ民話会

ひよつとこ踊りとは、宮崎県日向市を発祥とする伝統芸能です。キツネにおかめ、ひよつとこが登場し、ちよっぴり色っぽく、コミカルな動きが笑いを誘います。「湯来ひよつとこ民話会」は全国でも珍しい、女性だけのひよつとこグループです。平成13年（2001年）に発足したこの会は、敬老会や病院、祭り、結婚披露宴などで踊りを披露し、行く先々で爆笑の渦を巻き起こしています。発足人でリーダーを務めるのは

吉田廟子さんは「初めはしづいぶだったんですよ。でも一度ぐらいは舞台に出てみたらいいかなあと。それで舞台に立つてみたら、お客さんが大笑いよ！そのことが本当に楽しくて、以来ひよつとこ踊りの大ファンになりました」とニコリ。将来は外国人にひよつとこ踊りを披露して大笑いしてもらいたいと美奈子さん。定期公演は毎月第2土曜日の13時から廿日市のアルカディアビレッジで行っています。大爆笑間違いなし（！）ですよ。



左から6番目が美奈子さん。参加希望の方は湯来南公民館（0829-86-0607）まで

市民活do

shimin katsu do



今話題の市民活動を
紹介するこのコーナー。
その活動の原動力は
人生を楽しむ気持ちと
人に何かを与えることの
喜びでした。
さあ、あなたも市民活動を
始めてみませんか？

人々に笑いを届ける女性だけのひよつとこグループ「湯来ひよつとこ民話会」（佐伯区）と日本全国の被災地へ行き、現地の人々の復興への手助けをする「NPO法人広島レスキューサポート・バイクネットワーク」（中区）を紹介します。

原点となったバイクでの支援活動。現在は特にメンバー募集はしていません



「NPO法人広島レスキューサポート・バイクネットワーク」は、平成10年（1998年）に結成された市民団体です。当時全国に広がっていた「ジャパン・レスキューサポート・バイクネットワーク」の広島支部として立ち上がりました。

以来、北は新潟から南は熊本まで全国13カ所まで復興支援活動に取り組み、最近では平成18年（2006年）8月の「呉市・江田島市断水災害」に出動しました。主な活動内容は現地のボランティアセンターでのコーディネート業務です。この業務は、「災害被害を受けて助けが必要な人」と、救済活動をしたいボランティアとを結びつけるというものです。当初は「バイクを使っている情報収集や緊急物資の運搬」を想定していた団体でしたが、「災害時にバイクが必要となる機会は意外と少ない。被災地が復興するために一番必要な活動をしよつ」との理由から今のよう

「今後は、市民の災害に対する意識を高めていきたい」と事務局長の岡田誠司さん。災害時にどのような行動をとればいいのかという意識を、今より少しだけ持つて欲しいとのこと。

「最終的には、自分たちの街は自分たちで復興させていくもの。そのためには自主防災会や町内会を通じて『地元意識』を持つことは大切」と話します。

復興援助をするたびに「人と人とのつながりの大切さを感じる」という岡田さん。最近の活動については<http://www3.to.npo-hrbv/>で知ることができます。

復興に向けてのサポート

NPO法人広島レスキューサポート・バイクネットワーク

「NPO法人広島レスキューサポート・バイクネットワーク」は、平成10年（1998年）に結成された市民団体です。当時全国に広がっていた「ジャパン・レスキューサポート・バイクネットワーク」の広島支部として立ち上がりました。

以来、北は新潟から南は熊本まで全国13カ所まで復興支援活動に取り組み、最近では平成18年（2006年）8月の「呉市・江田島市断水災害」に出動しました。主な活動内容は現地のボランティアセンターでのコーディネート業務です。この業務は、「災害被害を受けて助けが必要な人」と、救済活動をしたいボランティアとを結びつけるというものです。当初は「バイクを使っている情報収集や緊急物資の運搬」を想定していた団体でしたが、「災害時にバイクが必要となる機会は意外と少ない。被災地が復興するために一番必要な活動をしよつ」との理由から今のよう